

過活動膀胱症状を有する男女に対するボタンボウフウエキスの臨床効果

【目的】

ボタンボウフウエキスを含有する食品を用い、未治療の頻尿・尿意切迫感を主とする下部尿路症状を訴える患者への投与前後における自覚症状スコアおよび排尿パラメーターの推移について検討した。

【対象と方法】 男性 20 例(平均年齢 69.7 歳、前立腺容量 36.2 ml)には、ボタンボウフウエキス (63 mg/日) とノコギリヤシエキス (320 mg/日) を配合した食品を、女性 10 例(平均年齢 69.2 歳)には、ボタンボウフウエキス (35 mg/日) を含有する食品をそれぞれ 4 週間投与した。

【結果】 男性では IPSS-QOL が有意に改善し(4.4⇒3.5)、また夜間排尿回数が有意な減少を示し(3.2⇒2.2)、残尿量も有意に減少した(49.3⇒24.6 ml)。女性では IPSS-QOL の改善(5.1⇒3.4)と IPSS 刺激症状の減少(9.3⇒7.1)とが認められ、残尿量も減少した(28.8⇒16.8 ml)。また明らかな有害事象は認めなかった。

【考察】 残尿を減らしながら膀胱刺激症状の改善効果が認められるボタンボウフウには、抗コリン薬やβ3作動薬とは異なる機序で排尿症状を改善させる可能性が期待される。